



市民社会と軍事

第I部 (13:00~14:50)

1. 19世紀初頭の市民社会と
解放戦争
ベルリンの地方紙を手がかりに
高岡 佐登美 (UCRC特別研究員)
2. 家庭雑誌に見る第二
帝政期ドイツの市民社会
長尾 唯 (UCRC特別研究員)
3. クルップ社の対日事業
戦略と『日独工業広告』
前田 充洋 (UCRC研究員)
4. 戦前期の「軍艦便乗」に
みる海軍のPR活動と民衆
中嶋 晋平 (UCRC研究員)

第II部 (15:00~17:00)

多様なメディアから
紐解く

- 博物館というメディア
第一次世界大戦期
イギリスにおける戦争展
林田 敏子 (摂南大学 教授)
- 19世紀末から20世紀初頭
にかけてのドイツ広告デ
ザインの日本への影響
竹内 幸絵 (同志社大学 教授)

(写真はシュペナー新聞のヘッダー: 高岡提供)

2020年2月14日(金)13:00-17:00

於 大阪市立大学経済研究棟1階・野村記念室

市民社会と軍事

軍事史研究をめぐっては、軍事戦略や作戦行動、軍指導層の伝記や英雄的記述等を分析する「戦史」研究にたいし、軍事や戦争を社会現象と捉え、「一般」の社会・経済との相互関連や相互影響あるいは社会の中の軍隊を重視する、「広義の軍事史」や「戦争社会学」等の分野が一九九〇年代以降台頭している。

そうした動向に与し、本フォーラムでは、近現代ヨーロッパと日本の多様なメディア（広告、ポスター、PR活動、新聞、博物館など）を題材にする。そこに垣間見える企業と軍隊、都市と軍隊、軍隊の民衆アプローチ、家庭における軍隊象そしてデザインや博物館に表される軍隊・戦争などの社会と軍隊の関係や、社会の中の様々な軍事を浮き彫りにしてみたい。今回は、プロジェクトメンバー

多様なメディア アから紐解く

に加えて、イギリス近現代史を専門とする林田敏子氏、広告史・デザイン表象を専門とする竹内幸絵氏を招き、軍隊と社会の関係をより重層的かつ多角的に把握し、比較検討することで、ヨーロッパ史研究や日本史研究に新たな事例と視座を提供する。

報告者紹介

高岡 佐登美

UCRC特別研究員・近代ドイツ史

長尾 唯

UCRC特別研究員・近代ドイツ史

前田 充洋

UCRC研究員・日独企業関係史

中嶋 晋平

UCRC研究員・コミュニケー

ション論

林田 敏子

摂南大学外国語学部 教授・イギリス近現代史

竹内 幸絵

同志社大学社会学部 教授・広告史、メディア・デザイン表象と

近代社会

アクセス：

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

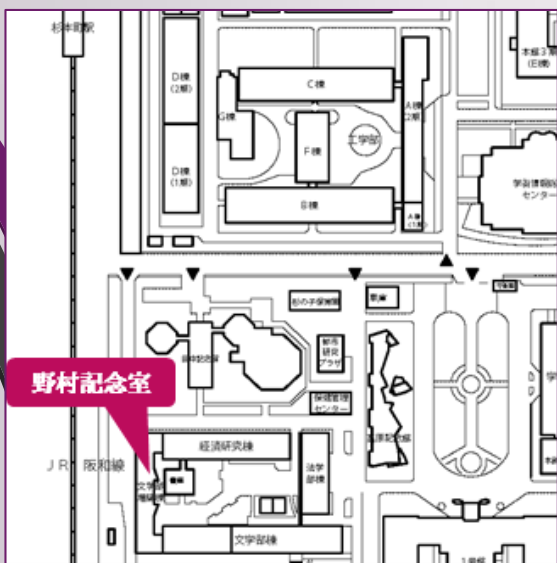
JR阪和線「杉本町駅」下車すぐ

大阪メトロ御堂筋線「あびこ駅」下車・

4号出口より南西へ徒歩約15分

経済研究棟(文学部増築棟)1階

※お車での来場はご遠慮ください。



UCRC
Urban-Culture Research Center